

# 入鹿小だより

～わくわく登校・ニコニコ下校～

熊野市立入鹿小学校  
校長 樋口 佳洋  
平成 30年 10月 11日  
第 13 号

## 紀和町合同運動会 好天の下実施される

2度にわたって延期された紀和町合同運動会が10月8日体育の日に実施されました。日程が変更となったことで仕事のやりくりをしていただいた保護者の方もみえたとの話も聞いております。ありがとうございました。

暑いぐらいの好天に恵まれ、子どもたちのやる気も気温と同じくらいに高くなっていると感じられるほどでした。9月初めから練習に取り掛かり、練習自体も雨に泣かされることが多かったのですが、本番が伸びたことで逆に練習できなかったことを補うことができ、本番を迎えることができました。ただその分、伸びた一週間には極力練習を入れないようにはしたのですが、子どもたちにとっては練習の時間が多くなり、やや疲れていたかなと思うところもありました。

昨年も感じたのですが、紀和町の合同運動会は前号の「マナウスよもやま話」にも書いたような、どことなくつかしく、昔の日本がここにあるという雰囲気がとても心地よく感じます。参加者のほとんどが顔見知りで、一般参加者のアナウンスの中にも名前がいっぱい出てきます。集まったみなさんが家族のようで、あたたかさもありました。

準備や片づけをそこにいる皆さんで手伝っていただいたり、積極的に競技へ参加していただいたりと、全員がこの運動会を大切にしていることがとてもよくわかりました。この先も長くこの合同運動会がこのままの雰囲気で続いていってほしいなと強く思いました。

皆様のご協力、本当にありがとうございました。



## 林先生 どんな授業をしてくれるのかな？

10月2日から12日まで、林敬一郎先生が入鹿小学校に来てくれます。林先生は津市立東橋内中学校の理科を担当している先生なのですが、今は三重大学大学院で更なる勉強をしています。その一環として入鹿小学校で実習しながら、複式の授業法などについて勉強しています。

これまで運動会の練習や準備、本番と、わたしたち職員と同じように子どもたちの指導や職員の手伝いをしてきていました。本職は理科の先生なので、実習最終日でもある12日に、全校児童に向けて理科の授業をしていただきます。全校児童ということで学年差はありますが、わかりやすく説明していただけるというので、どのような授業になるかとても楽しみです。



## マナウス日本人学校 学習発表会

マナウス日本人学校では毎年 11 月に学習発表会を行っています。マナウス日本人学校の三大行事（以前に紹介した運動会、今回の学習発表会、もうひとつは後日紹介します）のひとつに数えられており、日伯協会敷地内にあるホールを借りて行います。

この発表会には普段から交流がある幼稚園や現地校の子どもたちも友情出演してくれ、日本とブラジルの文化交流の意味合いもあります。

出し物によって小学部の低学年・高学年、中学部などに別れて音楽発表や劇、踊り等を披露します。私が赴任している間、中学部はよさこいソーランを踊りました。今、入鹿中学校がしているものとは振り付けが少しちがいましたが、歌はお馴染みのソーラン節です。

この学習発表会には保護者のみならず、日系人の皆さんもたくさん観に来てくれます。前回もお話したように、日系人の皆さんの心の中には昔の日本が残っており、「学習発表会」という名前もなんとなく昔の雰囲気を感じるのは私だけではないと思います。

特に印象に残っているのは低学年の劇「ごんぎつね」です。本当の「ごんぎつね」は主人公の兵十がキツネの「ごん」を鉄砲で撃ってしまうところで終わるのですが、この劇にはその後がつけ足してありました。

ストーリーはさておき、音楽や劇をするにあたって大変なことがあります。楽器は日本の学校にあるものは一応揃っているのですが、衣装や小物をそろえるのが大変でした。例えば、劇で使った着物。「ごんぎつね」

を演じるにあたって、昔のお話ですから着物が必要になってきますが、ここはブラジル。サンパウロなら日本人街があるくらいですから何とかなるかもしれませんが、ここはジャングルの真ん中のマナウス。そう簡単に手に入るものではありません。しかし、派遣前に手にした資料の中に、もってきた方がよいもの「ゆかた」とあったので、我が家では娘の分のゆかたを持参していったので、何とかになりました。

しかし何ともならないものもあります。それは「鳴子」です。私が赴任した年に初めてソーランをすることになったので、学校には買い置きがありませんでしたし、持参してきている家庭もありません。ではどうしたかという、ソーランの担当者が日本の実家に頼んで、文化コースも含めて全校児童生徒数分（30人位だったかな？）を日本から送ってもらったのです。当時amazonが今くらい一般的だったらもっと楽だったでしょうね。

